

4. 高知県の職域における成人病予防検査受検状況

こうち社会保険センター

○保健婦 小 澤 典 子(17回生)

1. はじめに

(こうち社会保険センターのあらまし)

社会保険庁は、本格的な高齢化社会を迎えつつある現状と、年金制度の急速な成熟化の事態をふまえ、政府管掌健康保険・船員保険などの社会保険関係の中高齢者や年金受給者等の①健康の保持増進と疾病の予防。②年金受給者等の生きがい創造。③社会保険に関する相談などの事業を行うため、「社会保険センター」の新設を計画し、昭和57年度を初年度として全国に設置されることになった。高知県は昭和58年8月にオープンし、現在全国に10カ所設置されている。こうち社会保険センターの運営は、社会保険に加入している事業主の団体である財団法人高知県社会保険協会が国(社会保険庁)からの委託を受けて行っている。

健康の保持増進と疾病の予防の事業の中でセンターに保健婦が常勤することになり、従来高知社会保険協会が行っていた職場の健康づくり事業の強化をはかった。現在、保健婦による事業所巡回健康相談・センター内での健康講座の開講・保健相談・成人病予防検査受検者の健康管理を主な保健婦活動にしている。政府管掌健康保険の被保険者への疾病予防として、昭和53年度より毎年、中高年齢者疾病予防検査(略して、成人病予防検査)を実施している。昭和58年度は8月1日より3月末日までの8か月の間に高知県下の6つの検診医療機関で4,562名が受検し、その検査結果はすべて、こうち社会保険センターの保健婦の手を通して成人病予防検査結果通知書を個人に送付した。

2. 成人病予防検査について

① 検査対象者

政管健保の被保険者で40歳以上の者であること。

② 検査内容

問診・理学的検査・血圧検査・胸部レントゲン検査・心電図検査・尿検査・血液理化学検査
血球容積値検査・胃レントゲン検査・子宮ガン(子宮ガン検査を希望したもの)

③ 経 費

受検者負担額 1人 …………… 3,500円(残り13,700円は国が負担する。)

④ 検定予定人員

5,000人

⑤ 実施期間

厚生年金高知リハビリテーション病院・高知赤十字病院・高知検診クリニック・県立安芸病院・県立西南病院・県立宿毛病院

3. 検査結果の区分について

実施医療機関では呼吸器・循環器・消化器・糖尿病・腎尿路系・貧血・婦人科の検査結果を通知票を記入し、指導区分・注意事項・医師名を明記の上、センター保健婦に送付してくる。

指導区分内容

1. この検査の範囲では、異常ありません。
2. わずかに異常を認めますが、日常生活に差し支えありません。
3. 日常生活に注意を要し、経過の観察を必要とします。
4. 治療を必要とします。
5. 二次検査を必要とします。

ア) 胸部X線検査

イ) 尿検査

ウ) 血液理化学検査

エ) 消化器検査

オ) 子宮ガン検査

ブドウ糖負荷

胃X線

コレステロール

胃内視鏡

肝機能

4. 受 検 状 況

高知社会保険事務所の昭和58年度政府管掌健康保険被保険者数調査によると、事業所数7,713・被保険者数123,604人。40歳以上の被保険者は推定で約42,000人とされている。事業所は主に高知市に集中し、被保険者の数も82,645人と全体の67%を占めている。従って成人病予防検査を受けた受検者も高知市に集中し、4,562人中2,660人(58%)が高知市の事業所につとめる被保険者である。

昭和58年度成人病予防検査受検者は総数4,562人で男性2,658人、女性1,904人である。1:1.4の割合で男性受検者が多い。男女の年代別受検率(表1)を比べると、男女共40歳代の受検者が多く、60歳以上の受検者は男性11%、女性5.3%と少ない。これは60歳以上の被保険者が少ないという事実と一致する。4,562人中異常者2,861人(62.7%) — ここでいう異常者とは指導区分3・4・5の者である。男性の受検者2,658

人中異常者1,657人(62.3%)。女性1,904人中異常者1,204人(63.2%)となっている。各県においても社会保険協会が国から委託を受け成人病予防検査を行っているが、検診医療機関から個人宛に直接、結果通知票が送付されるため、受検状況がつかめず、全国との比較はできないが、異常率が高い。成人病予防検査で発見される疾患(疑いを含む)をまとめてみると男性では、慢性胃炎が多く317人、ついで高血圧の305人、第3位が糖尿病の277人となっている。女性では、高血圧が多く216人、ついで高コレステロール血症の214人、第3位が心疾患の192人となっている。この表にはのせていないが、女性受検者1,904人中1,310人が子宮ガン検査を受け、その内3人に初期子宮頸ガンが発見され、手術を受けた。また胃の精密検査で胃ガンが3人発見され、いずれも手術を受けている。

性別・年代別正常者と成人病疾患の割合(図1)を比べると、まず男性では、40歳代正常者41%。慢性胃炎が10.3%で第1位。第2位は高血圧8.3%。第3位胃・十二指腸潰瘍、その他胃疾患7.4%と糖尿病7.4%となり、胃疾患特に胃炎が多い事がわかる。50歳代では正常者35.1%。慢性胃炎10.7%。高血圧10.2%。糖尿病10.1%となり疾患率が高くなり、高血圧・糖尿病がふえてきている。60歳代では正常者31.4%と低くなり、変わりに、高血圧15.1%。糖尿病10.7%。心疾患9.7%と疾患率が40歳代、50歳代よりも高くなっている。女性については、40歳代正常者42%。高血圧7.7%。高コレステロール血症7.7%。心疾患7.4%となり男性に比べて循環器系の疾患が多い。50歳代では正常者31.9%と男性よりも低く、又40歳代よりも低い。高コレステロール血症13.6%。高血圧13.4%。心疾患10.9%となっている。60歳代では正常者27%と低くなり、心疾患19.2%。高血圧13.4%。高コレステロール血症13.4%と循環器系疾患が高くなっている。これはさきごろ高知県保健環境部が発表した58年人口動態統計概況による、高知県の死亡原因の第1位は脳卒中(1,696人)であり、心臓病(1,434人)、ガン(1,411人)の順であるということからも、60歳代以上の疾患率の高さと関係がある。

表1 昭和58年度成人病予防検査の年代別・男女別の正常者・異常者数

年齢 性別 受検者数	40～49歳		50～59歳		60歳以上		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
総計	1,350	962	1,015	842	293	100	2,658	1,904
正常者	553	404	356	269	92	27	1,001	700
異常者	797	558	659	573	201	73	1,657	1,204

図1 成人予防検査年代別・性別疾患分類（昭和59年2月末現在）

年代	性別	正常	慢性胃炎	高血圧	胃十二指腸潰瘍その他	糖尿病	高コレステロール血症	肝機能障害	心疾患	腎臓病	貧血	呼吸器疾患	その他
40才代	男性	41%	10.3%	8.0%	7.4%	7.4%	7.4%	6.0%	4.9%	3.1%	1.9%	2.5%	
	女性	42%	7.7%	7.7%	7.4%	7.3%	5.9%	5.2%	4.0%	3.6%	2.4%	1.2%	5%
50才代	男性	35.1%	10.7%	10.2%	10.1%	8.2%	6.6%	5.9%	4.9%	2.8%	2.2%	0.4%	2.9%
	女性	31.9%	13.6%	13.4%	10.9%	7.7%	5.2%	3.7%	3.4%	3.1%	2.0%	1.2%	3.9%
60才代	男性	31.4%	15.1%	10.7%	9.5%	8.1%	6.3%	6.3%	3.9%	3.2%	1.5%	0.2%	3.8%
	女性	27%	19.2%	13.4%	13.4%	5.8%	3.8%	3.8%	3.8%	2.9%	1.9%	1.0%	4%

5. ま と め

以上のように成人病検査をまとめてみたが、一次検査だけの結果であるため、要精密者については、精密検査の未受診はすべて異常者とみなした。そのため異常者の数が多かったように思われる。今後は二次検査についての受診率をあげるよう努力し、より正確な成人病検査結果の報告にしていきたい。また成人病予防検査の結果、異常者となっている人に対しては、事業所訪問を行い保健相談にあたりたい。